

み上げている段階だ。まだまだ全貌は見えてこないが、すでにそのスケールの大きさは伺える。

日本の支援の下、この大規模な建設事業が始まったのは、今から3年前。現在運営されている「エジプト考古学博物館」は、開館からすでに100年以上が経ち老朽化が進んでいるほか、展示スペースも足りていない。そこで新しい博物館は、展示面積を広げ、新しいランドマークとなるような近代的なデザインに生まれ変わる。子ども向けの教育施設や、研究施設、ピラミッドを一望できる屋上庭園



和紙を使った修復技術を学ぶ研修員。約1カ月にわたり京都の工房に通い続けた

間、チーフアドバイザーを務めた中村三樹男JICA専門家だ。

まず取り掛かったのが、文化財のデータベースの作成だ。最終的に収蔵が予定されている数はなんと約10万点。その計画に間に合わせるためにも、エジプト学の知識がある現地スタッフを約20人雇用した。その中心となった人物が、学芸員としての調査研究の経験を持つアトワさんだ。政権崩壊によるデモが起きて、日本への一時退避を余儀なくされた時にも、アトワさんと電話でやり取りをしながら作業を進めるこ

なども設置される予定だ。

開館に向けて、いくつものプロジェクトが日本と協働で進められている。その一つが、収蔵文化財を適切に管理するため、保存修復センターでの業務に携わる人材を育成するというもの。「もったいない」という言葉に代表されるように、日本にはものを大事にする文化があり、保存・修復はまさに得意分野なのです。

こう話すのは、2011年までの3年間、チーフアドバイザーを務めた中村三樹男JICA専門家だ。

とができました」と、中村専門家は振り返る。そして最近、このデータベースが役に立つ出来事が起きたという。「文化財のテーブルに損傷が見つかり、センターに移送する際に付いたのではないかと、文化大臣らが責任を追及される事態となりました。ところがデータベースの写真から、4年前の時点ですでに傷が付いていたことが証明されたのです」。

### 日本の技術が集結！

一方、人材育成の面では、東京文化財研究所と協力して、遺物の取り扱い、微生物の管理、移送や梱包など、さまざまな研修を行っている。ここで生かされているのが、日本が誇る技術の数々。例えば、古代エジプトで使われた紙「パピルス」の保存・修復に、和紙作りの伝統技術を取り入れる試みが進められている。研修員は実際に京都の工房で、のり作りや、和紙を継ぎ合わせる手法などを学んでいる。また、移送や梱包に関する研修では、物流のプロ、日本通運の専門家が直接指導を行う。レプリカを使った実践形式で進められ、重量品については、安全に配慮しながらクレーンで吊り上げる訓練も行われた。「中には、方が」という日本語を覚えた研修員もいるほど、慎重にものを扱う日本人

の技能や精神が浸透したようです」と中村専門家は話す。

このほか、日本の鉄道技術を活用した「カイロ地下鉄4号線」の整備事業によって、カイロ中心部から博物館ができる地区までが結ばれる予定だ。博物館効果による観光客の増加が見込まれる中、交通渋滞の緩和や、利便性の向上につながることも期待されている。

「技術の向上もさることながら、資材の片付けや清掃、職場の安全・衛生に関する自覚も高まっていて、プロジェクトが切れ目なく続いていくことを実感しました」。

今年4年ぶりに現場に復帰した中村専門家。国内の政治的な混乱などにより、工事や研修のスケジュールは当初の予定に比べて遅れているが、周辺では新しいホテルができるなど、徐々に期待が高まっているという。中村専門家は、「まずは観光客が安心して訪れることができるように、現地政府は治安の確保に努めてほしい」と望む一方、「観光はこの国最大の産業。文化財の保護・展示・研究などのさまざまな面を強化することは、観光産業のますますの発展や、雇用機会の創出、さらにはエジプト経済全体の成長につながると確信しています」と話す。

新たな観光のシンボル「大エジプト博物館」の完成を、世界中の人たちが心待ちにしている。



今年3月ごろに撮影された大エジプト博物館の建設現場。遠くにピラミッドが見える



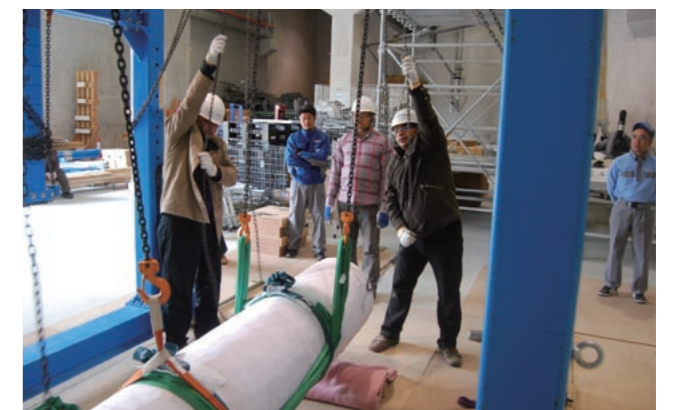
大エジプト博物館の入口付近の完成予想図

## 観光大国の歴史に 新たな1ページを

古代文明発祥の地、エジプトで、新たな観光のシンボルとして期待が高まっている「大エジプト博物館」。その設立に向けた一大プロジェクトに「オールジャパン」で挑んでいる。

### 機能的で魅力あふれる博物館へ

エジプトの首都カイロから南西に約15キロ。三大ピラミッドがそびえ立つギザ地区では、今日も大掛かりな建設工事が行われている。古代エジプトの至宝を発信する新たな拠点として、2018年の完成を目指す「大エジプト博物館」だ。現在、2階部分までの骨組みはほぼ完成し、3階部分を組



物流の専門家から指導を受けながら、重量品をクレーンで吊り上げる訓練を行った



カイロ地下鉄4号線の終着駅の完成予想図

